

差出人: 独立行政法人教職員支援機構 <joho@nits.go.jp>

日時: 2020年5月15日 17:04:21 JST

宛先: mgpdkgxzg@i.softbank.jp

件名: NITS ニュース特別号(125号):【思考ラボ「オンライン講座の分析から考えたこと」】

5.各地の学校から～休校の中での工夫～「地域とともにある学校の姿」(香川県高松市立鶴尾小学校)

教職員支援機構つくば中央研修センター長 清國 祐二

先日、18年過ごした高松の小学校の校長先生より、ご丁寧なお便りをいただきました。学校休業中に、先生方の創意工夫で、子供たちと「心のつながり」を作っているそうです。子供たちから届いた葉書のコピーも拝見したのですが、思わず笑顔になりました。

「担任による『各家庭へのお便り&返信用葉書』のポスティング」と「子供たちからの返信」という、双方向のやりとりを行っているそうです。

それだけでも素敵な取組なのですが、この返信用葉書は、家庭や地域の方々からの善意(書き損じ葉書等の寄付)によって準備されているのです。

校長先生の呼びかけにより、地域からもたくさん寄せられ、すでに数千枚の善意が集まっているそうです。

「地域とともにある学校」が目指すべき姿だとすれば、学校が必要とする力を地域に求めればいいのかと思います。

「何かしたい!」と思っている地域の人にはたくさんいらっしゃいます。

そこに学校の声が届ければ、必ず反応があるはずですよ。

家庭に届けられた葉書にどんな物語があるのか、保護者に伝わるといいですね。

その保護者の言葉で、子供が「地域の愛情」を感じることができればいいですね。

その校長先生は、前任校で教頭の職にあった時に、素晴らしい「亀阜(かめおか)おやじの会」の面々と出会っています。

学校や子供を通して、地域の力が花開くこともあるんですね。

学校が自己完結しないことが、実は大切なことではないでしょうか。

今回の新型コロナ禍によって、みなさんは何を思ったのでしょうか。

私は、「子供の登校が制限されることで、学校や教員の存在が改めて問われた」のだろうと感じています。

うかうかとしてはられません。私たちは何をすべきか、夏から再開される研修を通してみなさんとともに考えます。